

春ノ六裏

辨〈べん〉のうけ給りにてぞ給はりける又待〈たい〉

賢門院〈けんもんゐん〉の御かたへめされて権中納言〈ごんちうなごん〉殿の

御つぼねの御奉行〈ぶぎやう〉にて御はしたもの

乙女〈おとめ〉のまへ御うはぎかさなりたる紅〈くれなゐ〉の匂〈にほ〉

ひ十五の御衣〈ぎよい〉いたぎてかづけられたり

ければみる人めをおどろかしうらやみ

あさみあひたるこそ今生〈こんじやう〉の執心〈しゅうしん〉とく

まりあはれにかたじけなくよろこび

のなみだたもとにあまりてそ覚えける